

ウメすす斑病に対する殺菌剤の防除効果と効果的な防除体系

果樹試験場うめ研究所

[研究のねらい]

ウメすす斑病は、果実表面に薄い墨を流したような病斑を形成する病害で、生育後期に雨が多いと多発します。うめ研究所では、本病に対する各種殺菌剤の防除効果を調査し、効果が高い殺菌剤を組み合わせた防除体系の効果について検討しました。

[研究の成果]

1. オースサイド水和剤、デランフロアブルおよびスコア顆粒水和剤は、降雨の多少にかかわらず高い効果が認められます(図1)。
2. 収穫前使用日数の長いオースサイド水和剤およびデランフロアブルを初期防除に用い、収穫前使用日数の短いスコア顆粒水和剤を最終散布に使用した新体系の防除効果は対照に比べて高く、実用性は高いです(表1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 整枝・せん定や排水条件の改善などの耕種的防除を行うことで薬剤の効果は高まります。
2. 耐性菌の発生を防止するため、同一薬剤の連用は避けます。

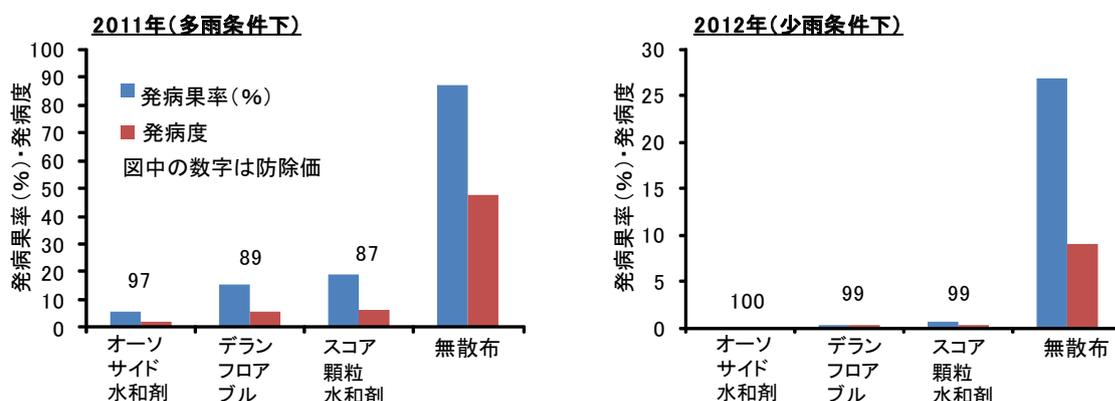


図1 ウメすす斑病に対する各種殺菌剤の防除効果

供試殺菌剤: オースサイド水和剤800倍、デランフロアブル2,000倍、スコア顆粒水和剤3,000倍

散布日: 2011年は4月29日、5月13日、5月25日。2012年は5月1日、5月16日、5月28日。ただしデランフロアブルは1回目だけの散布。

調査日: 2011年は6月21日、2012年は6月27日

防除価=100-(薬剤散布区の発病度/無散布区の発病度)×100

表1 各防除体系の供試殺菌剤と散布日

試験区	試験年		薬剤散布日			
	2013年	2014年	2013年	2014年	2013年	2014年
新体系	4/16	4/16	5/1	5/1	5/13	5/24
対照	イオウフロアブル	イオウフロアブル	ナリアWDG	ナリアWDG	ストロビードライフロアブル	スコア顆粒水和剤
無散布区	イオウフロアブル	イオウフロアブル	-	-	-	-

対照: 平成25年度農作物病害虫及び雑草防除指針に記載されたうめ「南高」防除層例を参考に殺菌剤を散布した。

無散布区: 黒星病防除のために、4月16日にすす斑病に効果がないイオウフロアブル500倍を散布した。

表2 各防除体系のすす斑病に対する防除効果

試験区	2013年試験結果			2014年試験結果		
	発病果率(%)	発病度	防除価	発病果率(%)	発病度	防除価
新体系	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
対照	7.5	1.8	83.0	2.3	0.5	94.6
無散布区	39.4	10.6	-	33.9	9.3	-

調査日: 2013年は6月27日、2014年は6月28日

(問い合わせ先 0739-74-3780)